教科又は教職に関する科目

日本史Ⅲ

社会科教育講座・川岡勉

１．授業の概要

この授業の目的は，社会科における基本的な教養として，歴史史料を読解する力を身につけ，史料を通じて日本史の流れと日本社会の特質を理解するところにある。

到達目標として掲げたのは，(1)基本的な史料について，読解して書かれている内容を理解できるようにする，(2)史料の内容を，それが作成された時代状況や地域状況との関わりにおいて捉える視点を獲得する，(3)史料に基づいて，自分の考えをまとめ論述する力を身につける，の３項目である。

関連するＤＰは，教育に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している（知識・理解），自己の学習課題を明確にし，理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる（関心・意欲）である。

学校教育教員養成課程の学生が８名，総合人間形成課程１名の合計９名が授業登録していたが，うち３名はほとんど出席しておらず，実質的に６名で授業を進めた。６名は，いずれも３回生，うち１名は中国からの留学生である。授業で取り上げた史料は，次の通り。

① 魏志倭人伝
② 大化改新の詔
③ 方丈記
④ 玉葉・吾妻鏡
⑤ 御成敗式目
⑥ 阿弖河荘カタカナ言上状
⑦ 二条河原の落書
⑧ 刀狩令
⑨ 林家文書
⑩ 安政地震史料
⑪ 日野家文書
⑫ 軍人軍隊の対住民行為に関する通牒

２．授業時間外学習の促進

授業の進め方としては，各史料の報告担当者（２名）を決めて、報告者からの発表とディスカッションを組み合わせる形をとった。あわせて受講者全員に事前に史料を配布し，目を通して気づいたこと，感じたことをプリントに書かせて授業に臨むように指示した。毎回の授業で提出させたプリントと，発表をもとに成績評価を行った。

３．アンケート結果

最後の授業時に授業評価アンケートをとり，６名の学生から回答を得た。

まず，この授業は教員にふさわしい資質を育てる上で役にたつと思うかを問うたところ，６名全員が「とてもそう思う」と回答した。そう判断した理由として「社会科教員を目指す上で史料を正確に読み取り，それを活用する能力を身につけるのは非常に大切である」，「歴史認識の問題について他者と意見交換する中で考えが深まった」と書いている。自分はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだと思うかを問うたところ，「とてもそう思う」が３名，「ややそう思う」が２名，「あまり思わない」が１名という結果であった。授業の目的・到達目標に照らした達成度を問うたところ，概ね達成した，レベルアップしたという回答がある一方，まだ力不足である，精度や読解力を伸ばしていく必要があるという回答もあった。授業の改善すべき点を問うたところ，一番多いのは受講人数が少なくて負担が重いということであった。その他，大変な所もあるが非常に中身の濃い授業であった，留学生の意見も聞けて議論がとても面白かったという声が寄せられた。

４．総括

取り上げた史料は，①～⑧までは中学校の全教科書に載っている史料であるが，これまで史料の原文を正面から読解した経験がないという受講生が多く，貴重な機会になったと考えている。⑨～⑪は地域教材を授業に活かすことを試みて欲しいという思いで取り上げた。報告者は色々と工夫をこらして発表を行い，パワーポイントを用いてニュース仕立てで発表する者もいた。受講者は本授業を肯定的に受け止めているだけに，受講者をどのように増やすかが今後の課題である。